

歴史探訪

クラブ! 192

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

今と昔の感覚の違い

現代だと、人の絵や文章をまねると「著作権の侵害」にあたり罰せられる場合があります。しかし、それは歴史の中で見ると、つい最近の出来事です。

そもそも和歌でいう「本歌取り」は先人が詠んだ有名な和歌を一句、もしくは二句入れる技法であり、本歌の情景を浮かばせて、詠むことで自分の和歌に深みを持たせることができます。江戸後期に活躍した伊良

湖の漁夫歌人糟谷磯丸も本歌取りをしていることが知られています。

渡辺華山の重要美術品『黄梁一炊図』も江戸時代に刷られた『唐土名勝図絵』から図取りをしています。

この「黄梁一炊図」は華山が最初に描いた作品だと言われています。聞き慣れない作品名だとは思いますが、「黄梁一炊」というのは中国の有名な故事です。蘆生という青年は仙人と出会い、貧しい自分の境遇を嘆

き、出世の望みのないことを訴えました。そうしているうちに蘆生は眠くなり、仙人に枕を貸してもらって眠ると、自分が立身し、高い身分になって年老いて亡くなるまでの夢を見ました。しかし、夢を見ていたのは黄梁（大粟のこと）がまだ蒸し終



▲渡辺華山筆 黄梁一炊図(個人蔵)

わらないわずかな時間のことでした。このことから、人の繁栄・人生がはかない例えとして語られています。

『黄梁一炊図』を見てみると、『唐土名勝図絵』の構図をまねていることが分かります。縦長の画面で山があるなど、違う部分もありますが、全体として見たときに違和感なく描かれ、一つの作品として見事に画面に収まっています。

例えば、本歌取りは歌を知らない人が見れば、作られた歌を味わうだけになり、それ以上の深みはなく、その和歌の全てを味わうことはできません。『黄梁一炊図』に関しても絵を見ただけでは中国の故事を知っている人しかこの絵の意味が分かりません。しかし故事を知っ

ている人なら「○○から取ったんだな」と分かり、その時に描いた人がいたならば、その人も「この人は教養がある」と思い、知識がある人同士で語り合うということなどをして楽しむこともしていました。



▲唐土名勝図絵(田原市博物館蔵)

昔は今とは違い、テレビもインターネットもなく、本も貴重品です。絵画を鑑賞するということは娯楽の一つであり、なかなか絵画を見ることもできない時代でしたので、語り合える人も、ましてや『黄梁一炊図』のように中国の故事が分かる人もまれでした。

このように、昔は先人の作品を踏襲することは、むしろ知識があることだと考えられていました。知識があつて初めて作品を全て味わえるものもあります。

このような作品もたくさんあるので、知っているのと、より楽しく美術鑑賞ができます。
(浅野)